

日本種苗新聞

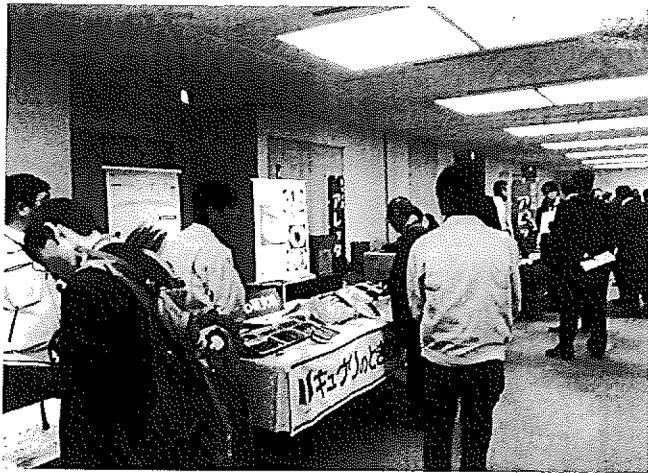
株式会社 日本種苗新聞
発行所 〒400-0047 甲府市徳行4-14-22
電話 055-235-7329
FAX 055-237-5751
振替 00460-8-358
E-mail info@seed-news.co.jp

コストの低減、食の簡便化

青果育種研・関東農政局で品種見本市

国産野菜の消費拡大で提言

青果育種研主催の「第142回品種見本市」は、さいたま市中央区のさい



加工・業務用野菜の産地づくりを目指して開かれた品種見本市

たま新都心合同庁舎で「加工・業務用野菜の産地づくりを目指して」をテーマにセミナーで学ぶ機会もある見本市となった。

外部化、簡便化志向が高まる中で、加工業務用野菜の需要が増えている。特に関東農政局管内ではこうした傾向が強いことから、今回のテーマになった。

セミナーでは初めに農林水産政策研究所の小林茂典統括上席研究官が「加工・業務用野菜の取り組みの要点」について話した。野菜の消費量の低減、付加価値形成と、年々減少し、特に若い層は食に対して安いの、簡単なものに傾き、安ければ国産にこだわらない、外食化などが国内野菜の需要拡大のブレーキになっていることを挙げ、消費者・実需者ニーズに対応した生産・供給体制として、産地から食卓までのトータルコストの低減、付加価値形成として機能性情報の付与する、カット野菜、半調理野菜、キット食材など食の簡便化を図る、などの提言をした。

続いて「四半世紀を経過した契約野菜部会の課題とこれからの取り組み」と題して、茨城中央園芸農協の藤田正三専務が組合設立から今日まで

の経過と、安定出荷とリスク分担、コスト意識の共有などについて話した。松屋フーズの遠山知秀商品部農産開発室長は、最先端テクノロジーを駆使して、おいしくて安全な食材を提供する自社システムを紹介した。

セミナーの後、同じ会場でカネコ種苗、サカタのタネ、タキイ種苗、トキタ種苗、ナコス、増田採種場、みかど協和、武蔵野種苗園、八江農芸、雪印種苗、横浜植木、渡辺採種場、渡辺農事、住友ベークライト、ときわマト、ダイコン、キュウリ、ニンジン、キャベツなど、手塩をかけて種苗を育成、販売する品種を紹介した。